

	シーズ名	全身性エリテマトーデスに対するマルチ・ターゲット療法
	氏名・所属・役職	医学研究科 循環器内科学・准教授、病院教授・根来 伸夫
<p><b>&lt;概要&gt;</b>  全身性エリテマトーデスにおいて、軽症用治療は免疫抑制を少なくし、重症用治療は免疫抑制を強くして治療を行ってきた。その結果、重症の患者さんは寛解してから再発までの期間が長く、軽症の患者さんは治療が軽いため再発が多い。</p> <p>このような矛盾する治療環境が長く続いてきたが、最近、全身性エリテマトーデスによる腎症（ループス腎炎）は、腎移植用多剤併用療法が少しずつ使われはじめた。</p> <p>これはマルチ・ターゲット療法と呼ばれ、用量調節が可能であり、軽症から中等症の全身性エリテマトーデス患者の治療に使える可能性を秘めている。低分子医薬品も治験が開始されており、いずれ上市される気配がある。</p> <p>完治を目指す治療法がないのであれば、逆に寛解期間を長くできる治療は患者さんの入院が減少するのであれば利点大きい。同等か、それ以上の効果があれば、医療費の削減につながるかも知れないので、期待される。抗体製剤治療（バイオ治療）の時代、このような低分子薬による治療の必要性が大きいかどうか、見極める必要がある</p>		
<p><b>&lt;アピールポイント&gt;</b>  完治を目指す治療法がないのであれば、逆に寛解期間を長くできる治療は患者さんの入院が減少するのであれば利点大きい。同等か、それ以上の効果があれば、医療費の削減につながるかも知れないので、期待される。</p>		
<p><b>&lt;利用・用途・応用分野&gt;</b>  製薬業界、臨床検査会社</p>		
<p><b>&lt;関連する知的財産権&gt;</b>  <b>学会発表</b> 日本リウマチ学会学術総会 2018 P2-018 平井孝幸、他 当科における膠原病患者の妊娠・出産の11年間のまとめ  日本リウマチ学会学術総会 2018 P3-216 松島秀幸、他 無菌性髄膜炎、手関節炎およびぶどう膜炎で発症した再発性多発軟骨炎の一例</p>		
<p><b>&lt;関連するURL&gt;</b>  <a href="http://www.med.osaka-cu.ac.jp/interml/zinzou/">http://www.med.osaka-cu.ac.jp/interml/zinzou/</a></p>		
<p><b>&lt;他分野に求めるニーズ&gt;</b>  トランスレイショナルナル・リサーチができる技術</p>		
キーワード	膠原病、自己免疫、臨床免疫、全身性エリテマトーデス、全身性硬化症、筋炎、血管炎、サイトカイン、細胞内刺激伝達系、免疫抑制	